国交労組

より多くのなかまを職場で迎えよう

2020年１月５日号
第184号
毎月２回５日・20日発行

発行所
東京都千代田区霞ヶ関２の１の３　国土交通労働組合
電話(03)3580-4244　ＦＡＸ(03)3593-0359
ＵＲＬ：http://kokkoroso.or.jp/
発行者：安藤　高弘
１部20円（組合員の購読料は組合費に含む）

2020年1月5日　国交労組　第184号（通巻1339号）　昭和37年12月3日　第三種郵便物認可

賀正

2020年

～ONE TEAM～ で躍進を！

We are Kokkoroso!!

明けましておめでとうございます
本年もどうぞよろしくお願いいたします

国土交通労働組合
中央執行委員会　一同

国土交通労働組合
中央執行委員長
安藤　高弘

新年あけましておめでとうございます。

全国各地で国土交通労働組合に結集するなかまのみなさんがご奮闘されていることに、心から敬意を表します。

旧年を振り返ってみれば、ラグビーワールドカップに日本中が熱狂した思い出が蘇ってきます。私的な話をすれば、居住する調布市には熱戦が繰り広げられたスタジアムがあり、その関係もあって期間中の土日には調布駅前に大きなパブリックビューイングが設置され、大変な賑わいでした。老若男女、多くの外国人も観戦し、戦況に一喜一憂する姿もまた素晴らしい光景でした。

ところで、ラグビーの各国代表は「愛称」を持っています。有名なのはニュージーランドの「オールブラックス」ですが、日本代表にも「ブレイブブロッサムズ」（勇敢な桜戦士）という愛称があり、かつては「チェリーブロッサムズ」でしたが、体格で劣る諸外国のチームに果敢に立ちむかっていく姿勢から、現在の愛称に変わったそうです。

19年の流行語大賞となった「ONE TEAM」。日本代表チームのスローガンですが、日本チームはメンバー総勢31人のうち、半数の15人が外国人という多国籍チームであり、言語や文化も異なるメンバーが一つにまとまっていくことが求められていました。また、ラグビーチームの編成は相手ゴールラインにむけて少しでも前に攻め込むフォワード陣、フォワードとバックスを連携させるハーフ陣、トライをめざして走り込むバックス陣に分けられます。

フォワード、ハーフ、バックスがそれぞれの役割をしっかりはたすと同時に、一体の攻撃をすることで得点を重ねていくことにつながります。それぞれがバラバラの動きをしてしまうと、逆に相手にチャンスを与えてしまいかねず、そうした点からも一致団結した「ONE TEAM」のチーム作りが進められたそうです。

そうした「ONE TEAM」の考え方を労働組合に当てはめてみればどうでしょうか？ 相手の攻撃を受け止め、少しでも前に進むことをめざすフォワードを組合本部とすれば、バックスはトライという要求実現をめざすメンバーですから、分会あるいは職場ということになり、本部と分会・職場をつなぐハーフ陣は地協や支部と喩えることができると思います。

フォワード（本部）は何も考えずがむしゃらに前に進むだけではなく、相手チームの激しい当たりにひるんで立ち止まっているような状況ではいけませんし、ハーフ（地協・支部）は上手くフォワードの前進や相手の攻撃を食い止めていることを活用して、バックスの持ち味を生かさなければいけません。また、バックス（分会・職場）はなかま同士でパスをつなぎあい、あるいは全力でゴールめがけて走り込む努力をしなければいけません。

そうしたように、本部＝地協・支部＝分会・職場がそれぞれの役割を果たして、真に「ONE TEAM」となれば、国土交通労働組合はいま以上の大きな力を発揮できるものと確信しています。

話は変わって、本部役員の常駐体制を昨秋より見直しました。本部書記局自体はこれまでどおり、国土交通本省内と気象庁本庁内に設置していますが、それぞれに分離して常駐していた役員を霞ヶ関に一元化しました。これについてはいくつか疑問視するご意見を頂きましたが、本部書記局を分離したまま組織運営をすすめていく非効率性とともに、国土交通労組が名実ともに一体となっていくためには、運動の責任を担う本部を文字どおり「ONE TEAM」とすることが重要と判断したところです。組合員はもとより関係各位においては、しばらくはご不便と戸惑いをお掛けしますが、ご理解を頂きたいと思います。

さて、あたらしい年、２０２０年は干支が一回りし、子年というスタートの年です。また、国土交通労組が結成されて10年目に入る節目の年でもあります。いまの組織現状は、組合員の願いや職場実態とは裏腹に、運動が十分であるとは言い難いものとなっています。しかし、厳しい時代だからこそ、立ち止まるのではなく、前に進んでいくことが大事です。言うなれば、『要求』というボールをなかまとなかまでつなぎあい、トライ（要求実現）をめざすために、本部、地協・支部、分会・職場がしっかり団結し、それぞれの役割をはたしていく必要があります。

本年を国土交通労働組合が「ONE TEAM」と職場内外から認められ、さまざまな攻撃にひるむことなく、要求実現までたたかい続ける『勇敢な組合』と呼ばれるように、なかまの力をあわせて頑張るスタートの年にしようではありませんか。